



よみがえる グリーンライン

～「普通の道」を「特別な道」に～



グリーンラインを愛する会
理事長 丸山 孝志

「松枯れと野犬と暴走族と不法投棄のゴミの」と呼ばれていた福山グリーンラインが、紆余曲折を経て2007年頃から2010年頃にやっと「普通の道路」になったように思います。

そこから私たちの新しい挑戦が始まりました。それは「普通の道路」の状態を守り続けるだけでなく、福山グリーンラインを「特別な道路」にしようという挑戦でした。

「特別な道路」と言っても「誰にとっての特別な道路にするのか？」によって目指す方向も変わってきます。「福山市民にとっての特別な道路」「福山を訪れる観光客にとっての特別な道路」…そのほかにも色々あります。そうしたことを考えながら少しずつ目標や計画を話し合いました。

最初に手掛けたのが「福山グリーンラインをもっと大勢の人に知ってもらう」という事でした。

と言うのも当時の福山市の観光マップにも、観光案内パンフレットにも福山グリーンラインは記載されていなかったのです。

「あんなひどい場所をわざわざ観光案内する必要なんか無い。」という判断ではなく、観光コンベンション協会にも観光課にも「福山グリーンライン」と言う場所の事を知っている人がほとんど居なかったのです。

もちろん私たちの活動は10年以上マスコミが頻繁に取り上げてくれて、大勢の人がそれを見てくれてはいましたが、それは「へえ、福山にあんなひどい場所があるんだ。」とか、「へえ、頑張ってる人が居るんだね。」程度の印象しか与える事が出来ていなかった。「福山グリーンラインに行ってみよう。」とまで思う人はほとんどいなかったのです。

「福山グリーンライン」は市民にも行政にも「忘れられた道路」だったのです。



グリーンラインの案内看板

そこでまず「福山グリーンラインって道路はどんな道路なのか?」「そこには何が有るのか?」「いったいどうやって行けば良いのか?」を知ってもらう所から始める必要があったのです。

「ドライブマップを作ろう。観光案内看板も欲しいよね。」「何かイベントをやれば人を呼べるよね。」「行政の人にも福山グリーンラインの事を知ってもらう必要があるよね。」「やっぱり喫茶店とかレストランとかが必要だよな。」…

次から次へと意見が出てきました。どれももともとの意見です。みんなで話し合いながら、こうした沢山の意見の中からいくつかの案を選び、順番を決めて取り掛かる事にしました。

最初に取り掛かったのは「ドライブマップを作る」「オートバイが通れる道路にする」「何かイベントをやる」などと言った案でした。そうしてこれらに取り組み途中で、私が10年間取り組んできた事柄から得られた経験、知識、ネットワークがどれ程の大きな役割を果たしたかという事を私自身が再認識することにもなりました。

私の周りでも「あれをやりたい。これをやりたい。でも、どうすればできるのか、誰に相談し、誰にやらしてもらえば良いのかわからない。」「目標は決まったけど、どうしても前に進めない。」そう嘆く方が大勢おられます。そうした方々にとってこれからの話はお役に立てるのではと思っています。どうぞ次回以降をご期待ください。